



TITLE:

法令

AUTHOR(S):

CITATION:

法令. 經濟論叢 1927, 25(1): 148-154

ISSUE DATE:

1927-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128552>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

經濟叢論

號 一 第

卷五十二第

行發日一月七年二和昭

論 叢

公益團體の課税

法學博士

神戸 正雄

マルクスの農業労働者に関する見解

法學博士

河田 嗣郎

ミルのエソロヂー論

文學博士

米田庄太郎

時 論

上海中立に關する一考察

法學博士

末廣 重雄

說 苑

宗門人別改制度の沿革

經濟學士

菊田 太郎

工業分布論に關する文獻

經濟學士

黒 正 巖

雜 錄

精神労働者と獨逸所得稅法

法學士

汐見 三郎

獨逸都市に於ける乗合自動車交通

經濟學士

山口 信男

スミスとリストの經濟發達階段說

經濟學士

上田藤十郎

京都帝國大學經濟學會大會記事

法 令

國債整理基金特別會計法改正・不良住宅地區改良法・土地貸賃價格調査委員會法・土地貸賃價格調査委員會法施行規則

法

令

國債整理基金特別會計法中改正

法律第四號 (昭和二年三月二十九日)

第二條ノ二 國債ノ元金償還ニ充ツル爲前條ノ繰入額ノ外毎年

其ノ前前年度ニ於テ一般會計ノ歲計上新ニ生シタル剩餘金ノ四分ノ一ヲ下ラサル金額ヲ一般會計ヨリ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ

前項ノ剩餘金ノ計算ニ付テハ之ヲ生シタル年度ヨリ翌年度ニ繰越シタル歳出豫算ノ財源ニ充ツヘキ額ヲ算入セサルモノトス

第四條第一項ヲ左ノ如ク改ム

國債整理基金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

附則

本法ハ昭和二年度ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

明治三十九年三月二日公布 法律第六號國債整理基金特別會計法抄

錄

第四條第一項

國債整理基金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有シ其ノ他有利且確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用スルコトヲ得

不良住宅地區改良法

法律第十四號 (昭和二年三月二十九日)

第一條 公共團體ハ不良住宅密集シ衛生、風紀、保安等ニ關シ有害又ハ危險ノ虞アル一團地ニ付本法ニ依リ改良事業ヲ行フコトヲ得

公共團體前項ノ規定ニ依リ改良事業ヲ行ハントスルトキハ主務大臣ニ申請シテ地區ノ指定ヲ受クベシ

第二條 主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ニ依ラズシテ地區ノ指定ヲ爲シ其ノ地區ノ屬スル公共團體ニ對シ本法ニ依ル改良事業ノ施行ヲ命ズルコトヲ得

第三條 主務大臣前二條ノ規定ニ依リ地區ノ指定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ公告スベシ

一 地區ノ區域

二 改良事業施行者

第四條 前條ノ公告アリタルトキハ事業施行者ハ一年以内ニ改良事業方法ヲ定メ主務大臣ニ認可ノ申請ヲ爲スベシ

前項ノ認可アリタルトキハ事業施行者ハ三月以内ニ事業ニ着手スベシ

事業施行者第一項ニ規定スル期間内ニ改良事業方法ノ認可申請ヲ爲サズ又ハ第二項ニ規定スル期間内ニ事業ニ着手セザルトキハ主務大臣ハ地區ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第五條 事業施行者ハ地區内居住者ヲ一時收容スルニ必要ナル設備ヲ設クベシ

特別ノ事情アルトキハ事業施行者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ設備ヲ設ケザルコトヲ得

第六條 事業施行者ハ地區内ニ於ケル土地ノ區劃形質ノ變更、道路下水ノ施設、地上物件ノ除去其ノ他地區改良ノ爲必要ナル事業ヲ行フベシ

第七條 事業施行者ハ地區内居住者ノ居住ニ充ツベキ住宅ヲ其ノ地區内ニ建設スベシ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ地區外ニ之ヲ建設スルコトヲ得前項住宅ノ數ハ地區ノ指定アリタルトキ現ニ其ノ地區内ニ居住スル者ノ世帯數ヲ下ルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 改良事業ヲ施行シタル公共團體ハ前條ノ規定ニ依リ建設シタル住宅ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クベシ

第九條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業施行者ニ對シ其ノ事業ノ施行ノ爲支出スル經費ノ二分ノ一以內ヲ補助ス

第十條 本法ニ依ル改良事業施行ノ爲必要アルトキハ事業施行者ハ地區内ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十一條 前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニシテ改良事業トシテ行フ建物ノ建設及公共ノ用ニ供セザルモノハ第六條ノ事業ノ完了後之ヲ賣却スベシ

前項ノ事業ノ完了ハ主務大臣ノ認定ヲ受クベシ

第十二條 前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却ハ左ニ掲グル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ競争入札ニ依リ之ヲ行フベシ

一 改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二 改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ニ關シ其ノ土地收用ノ際權利ヲ有シタル者(擔保權者ヲ除ク)又ハ其ノ相續人

三 改良事業施行ノ爲收用セラレタル土地ノ上ニ存シタル建物ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者

前項ニ掲グル者一人ナルトキハ隨意契約ニ依リ賣却スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ賣却スルコトヲ得ザル土地ノ賣却ニ付テハ一般ノ競争入札ニ依ルベシ

第十三條 第五條ノ規定ニ依ル一時收容設備ノ爲特別ノ必要アルトキハ事業施行者ハ地區附近ノ土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ使用スル土地又ハ建物其ノ他ノ工作物ハ主務大臣決定シ之ヲ公告スベシ

第十四條 本法ニ依ル改良事業施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ行政廳ハ地區内ノ建物其ノ他ノ工作物ノ所有者ニ對シ其ノ移轉ヲ命ジ又ハ其ノ占有者ニ對シ立退ヲ命ズルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ハ行政廳ガ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 第十條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

法令

前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ付テハ建物其ノ他ノ工作物ハ之ヲ土地ト看做ス

第十六條 第十條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第一條第二項若ハ第二條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ地區指定又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依ル主務大臣ノ決定ヲ以テ土地收用法第十二條ノ規定ニ依ル事業ノ認定、第三條又ハ第十三條第二項ノ規定ニ依ル公告ヲ以テ土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ト看做ス

第十七條 第十四條ノ規定ニ依リ移轉又ハ立退ヲ命ゼラレタル者其ノ移轉又ハ立退ニ因リ損害ヲ受ケタルトキハ事業施行者ハ其ノ通常受クベキ損害ニ限リ之ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依ル補償金ハ收用審査會之ヲ決定ス

第十八條 第十四條ノ規定ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ對シ不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十九條 第十七條第二項ノ規定ニ依ル收用審査會ノ決定ニ對シテ不服アル者ノ出訴ニ付テハ土地收用法第八十二條第一項及第二項ノ規定ヲ適用ス

第二十條 公益法人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ本法ニ依リ改良事業ヲ行フコトヲ得

本法ハ第二條ノ規定ヲ除クノ外前項ノ認可ヲ受ケタル法人ニ之ヲ適用ス但シ第一條及第八條ノ規定ノ適用ニ付テハ同條中公共團體トアルハ前項ノ認可ヲ受ケタル法人トス

附則

第二十五卷 一五〇 第一號 一五〇

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(參照)

明治三十三年六月二日法律第八十四號行政執行法抄錄

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基ツキテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收ヘルコト

二 強制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキトキハ命令ノ規定ニ依リ二十五圓以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一號ノ處分ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

行政官廳ハ第一項ノ處分ニ依リ行爲又ハ不行爲ヲ強制スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非サレハ直接強制ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 第三條及第五條ノ費用及第五條ノ過料ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス第一項ノ費用及過料ニ關スル繰替支辨、收入ノ所屬其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治三十三年三月七日公布法律第二十九號土地收用法抄錄
第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之

ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス
第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者及事業ノ種類
並起業地ヲ公告スヘシ

第八十二條 第一項及第二項

收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ
通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書原本ノ交付ヲ受
ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得ス

土地賃貸價格調査委員會法

法律第十六號 (昭和二年三月二十九日)

第一條 土地賃貸價格調査法第四條ノ規定ニ依リ同法第三條ノ

區域及標準賃貸價格ヲ定ムル爲稅務署長ハ其ノ調査書ヲ作成
シ之ヲ賃貸價格調査委員會ニ提出スヘシ

第二條 各稅務署所轄内ニ賃貸價格調査委員會ヲ置ク但シ稅務
署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ賃貸價格調査委員
會ヲ置クコトヲ得

第三條 賃貸價格調査委員會ハ之ヲ置クヘキ區域内ノ各市町村
ニ於テ地租納稅義務者ノ選舉シタル調査委員ヲ以テ之ヲ組織
ス

各市町村ニ於テ選舉スヘキ調査委員ノ數ハ市ニ在リテハ十
人、町村ニ在リテハ一人トス但シ市町村ノ情況ニ依リ命令ヲ
以テ之ヲ増減スルコトヲ得

法 令

第四條 選舉期日前十五日ノ現在ニ於テ地租名寄帳ニ納稅義務

者トシテ記載セラレタル個人(地租條例第十三條ノ規定
ニ依リ地租ヲ徵收セラレサル者ヲ含ム)ハ當該市町村内ニ於
テ調査委員ヲ選舉シ又ハ調査委員ニ選舉セラレルコトヲ得但
シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 破産者ニシテ復權ヲ得サルモノ

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重
罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其
ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノモ
ノ

法人ニシテ地租ノ納稅義務ヲ有スル者ハ前項ノ規定ニ準シ調
査委員ヲ選舉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉ニ關スル代
表者ヲ定メ當該市町村長ニ申告スヘシ

第一項但書各號ノ一ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ依リ法人ノ
代表者タルコトヲ得ス

第五條 投票及開票ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ擔任シ其ノ他
ノ選舉ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第六條 稅務署長ハ調査委員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市町村長ニ
通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日
前ニ之ヲ公示スヘシ

前項ノ公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ

第七條 調査委員ノ選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人

一人ノ氏名ヲ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第八條 市町村長ハ當該市町村内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ

内ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ

立會人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス

第九條 投票ノ效力ハ立會人ノ意見ヲ聽キ市町村長之ヲ決定ス

ヘシ

第十條 市町村長ハ投票ヲ調査シ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ通

知スヘシ

一 投票人及投票ノ數並有效投票及無效投票ノ數

二 投票ヲ無效ト決定シタル事由

三 被選舉人ノ住所、氏名、生年月日及其ノ得票數

第十一條 稅務署長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ當

選人ヲ決定スヘシ

第十二條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票數同シ

キトキハ年齡多キ者ヲ取リ年齡モ亦同シキトキハ稅務署長抽

籤シテ之ヲ定ム

第十三條 稅務署長當選人ヲ決定シタルトキハ其ノ氏名ヲ公示

シ且之ヲ當選人及市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示ス
ヘシ

第十四條 調査委員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ

辭スルコトヲ得ス

第十五條 調査委員第四條第一項但書各號ノ一ニ該當スルニ至

リタルトキハ其ノ職ヲ失フ

第十六條 調査委員ニ缺員ヲ生シタルトキハ當選人トナラサリ

シ者ノ内得票數多キ者ヨリ順次之ヲ補充ス其ノ得票數同シキ

トキハ第十二條ノ規定ヲ準用ス

第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 調査委員ノ選舉ニ於テ當選人ノ數カ定數ニ達セサル

トキ又ハ調査委員ニ缺員ヲ生シ前條ノ規定ニ依リ補充スヘキ

者ナキトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ賃賃價格調査委員會開會後

缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第十八條 賃賃價格調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開

ク其ノ開會日數ハ五十日以内トシ地方ノ情況ニ依リ命令ヲ以

テ之ヲ定ム

第十九條 賃賃價格調査委員會ハ開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨ

リ會長ヲ選舉スヘシ

會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年齡多キ者會長

ノ職務ヲ代理ス

第二十條 賃賃價格調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席

スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長

ノ決スル所ニ依ル

第二十一條 貨貨價格調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ

第二十二條 昭和二年十一月二十日迄ニ貨貨價格調査委員會成立セサルトキハ稅務署長ニ於テ土地貨貨價格調査法第三條ノ區域及標準貨貨價格ヲ定ム

貨貨價格調査委員會開會ノ日ヨリ第十八條ノ期間内又ハ昭和二年十一月二十日迄ニ決議終了セサルトキハ稅務署長ニ於テ土地貨貨價格調査法第三條ノ區域及標準貨貨價格ヲ定ム

第二十三條 稅務署長ハ貨貨價格調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ十日以内ノ期間ヲ定メ再議ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルトキ又ハ再議期間内ニ決議終了セサルトキハ稅務署長ニ於テ土地貨貨價格調査法第三條ノ區域及標準貨貨價格ヲ定ム

第二十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ貨貨價格調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十五條 調査委員ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ支給ス

第二十六條 土地貨貨價格調査法第三條ノ區域及標準貨貨價格ヲ定メタルトキハ稅務署長ハ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日間關係者ノ縱覽ニ供スヘシ縱覽期間ハ豫メ之ヲ公示スヘシ

第二十七條 自己ノ納稅義務ヲ有スル土地ニ適用セラルヘキ標準貨貨價格ニ關シテ異議アル者ハ前條ノ縱覽期間満了ノ日ヨ

リ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 前條ノ申立アリタルトキハ稅務監督局長ハ之ヲ審查決定シ異議申立人ニ通知スヘシ

第二十九條 前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴訟ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十條 貨貨價格ノ調査又ハ決議ニ從事シタル者ハ其ノ調査又ハ決議ニ關シ知リタル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第三十一條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

市制第六條ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

大正十五年三月三十日法律第四十五號土地貨貨價格調査法抄

錄

第三條 土地ノ貨貨價格ハ各地目毎ニ土地ノ情況類似スル區域内ニ於ケル標準貨貨價格ニ依ル

法令

標準貨賃價格トハ前項ノ區域内ニ於ケル標準ト爲ルヘキ土地ニ付貨主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ヲ謂フ

第四條 前條ノ區域及標準貨賃價格ハ別ニ定ムル所ニ依リ賃賃價格調査委員會ノ議ニ付シ政府ニ於テ之ヲ定ム

明治十七年三月十五日 太政官布告第七號地租條例抄錄

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ納ムヘキ者（法人ヲ除ク）ノ住所地市町村及其隣接市町村内ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其同居家族ノ分ト合算シ二百圓未満ナルトキハ

命令ノ定ムル所ニ依リ其田畑ノ地租ヲ徵收セス但小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此限ニ在ラス

明治四十四年四月七日 公布法律第六十八號市制抄錄

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關係アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

土地賃賃價格調査委員會法施行規則

大藏省令第十八號（昭和二年六月十五日）

第一條 稅務署長ハ土地賃賃價格調査委員會法第一條ノ規定ニ

第二十五卷 一五四 第一號 一五四

依リ土地賃賃價格調査書正副二通ヲ作成シ之ヲ賃賃價格調査委員會ニ提出スヘシ

第二條 各稅務署所轄内ニ在ル市及市制第六條ノ市ノ區ニ附テハ土地賃賃價格調査委員會法第二條但書ノ規定ニ依リ特ニ賃賃價格調査委員會ヲ置ク但シ東京市ノ區、大阪市ノ區、橫濱市、神戸市及本令施行後市トナリタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三條 土地賃賃價格調査委員會法第三條第二項但書ノ規定ニ依リ調査委員ノ數ヲ増減スヘキ市區町村及其ノ調査委員ノ數ハ別表ニ依ル

第四條 土地賃賃價格調査委員會法第四條第二項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者ノ申告ハ選舉期日ノ前日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第五條 賃賃價格調査委員會ノ開會日數ハ其ノ區域内ニ於テ賃賃價格ヲ調査スヘキ土地ノ筆數ニ從ヒ左ノ如ク之ヲ定ム

百萬筆以上ナルトキ	五十日以内
七十萬筆以上ナルトキ	四十五日以内
五十萬筆以上ナルトキ	四十日以内
三十萬筆以上ナルトキ	三十五日以内
三十萬筆未満ナルトキ	三十日以内

第六條 調査委員ニハ手當百圓ヲ支給ス但シ調査委員會ニ全ク出席セサル者ニハ之ヲ支給セス

調査委員ニハ前項手當ノ外往復旅費ヲ支給ス

前二項ノ手當及旅費ノ支給ニ關シテハ大正二年大藏省令第二十五號第二條第四條及第五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 調査委員ノ選舉ニ關スル立會人ニハ國庫ヨリ日當二圓ヲ支給ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別表ハ略ス）